

# YWVOB会 会報 No.26

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会

2004年4月18日発行

## ～ 26号の目次 ～

・ YWV部長の交代について.....	1	・ 期別便り.....	8
・ 第9回 OB 山行の報告(三ツ峠山).....	3	・ 2003年シニアOB月例山行報告.....	13
・ 第10回(御正体山)、第11回(磐梯山)OB山 行のお知らせ.....	4	・ 2004年シニアOB月例山行計画と報告.....	15
・ 屋久島へ(現役活動報告).....	5	・ 苗名小屋 雪下ろし報告.....	16
・ 横浜国立大学の法人化について.....	7	・ 自由投稿.....	16

## ■ YWV部長の交代について

報告：禪 知明(29期)

「米屋部長、ありがとうございました。高木新部長、よろしくお願ひ致します。」

この春、2期の米屋勝利(こめや かつとし)先生が御退官となられ、部長が交代となりました。後任を14期の高木展郎(たかぎ のぶお)先生がお引き受け下さることとなりましたので、報告させていただきます。

平成16年3月10日午前11時過ぎに、横浜国立大学教育実践総合センターの14期高木先生のお部屋に、現役主将46期 塩野、47期 小原、29期 禪が訪問し、塩野より現役の活動の概略の説明があり、部則や遭対規約、山岳保険証のコピーや現役部員名簿をお渡ししました。早速、春合宿とPW(個人山行)の計画書を提出させていただきました。その後、大学会館3階きやら亭にて、2期米屋先生にご馳走して頂き5名で会食をし、食後、先生方に部室をご覧になって頂き、このように写真撮影を行いました。



高木新部長と米屋前部長  
部室にて

## ■ ワンゲル部長を交代して

米屋 勝利(2期)

昭和37年に横浜国立大学を卒業してから、東芝で27年、平成元年に横浜国立大学に赴任して15年が経過し、先日の3月31日をもって無事定年退官しました。平成7年から7年間、工学部生産工学科の井口栄資先生の後を受けてワンダーフォーゲル部の部長を務めさせていただきました。部長としては現役の学生達に何もしてやれず7年間が経過してしまいました。その分は禪知明先生がケアしてくれました。3月10日に、教育人間科学部の高木展郎先生(14期)、禪先生(29期)、ワンゲル部の塩野君(46期)、



最終講義の後、  
花束を受け取る米屋先生

小原君(47期)と大学の職員食堂「キャラ亭」で昼食を取りながら、高木先生に次期部長の役目を引き継ぐことができました。何はともあれ大過なく任務を終えることができたことは誠に嬉しい限りです。食事を取りながら、最近の部の様子や活動内容を聞いた後、ワングルの部室を見学しました。まさに、現役時代の弘明寺や清水が丘を思わせるすさまじい光景でしたが、そこには創立以来47年間の長い歴史の記録が残されていました。まずは使えないであろう古いコンロや小道具もあり、昔の懐かしさを感じた次第です。高木先生は現在もワングルの活動では現役だと聞いております。よろしくご指導・ご支援をお願いいたします。

4月になったら同期(2期)のOB達が歓迎してくれます。私が現役時代の部長は機械工学科の柴田晴彦先生でしたが、先生が65歳の定年を迎えた翌年にOB有志が連れだって、先生が行きたいと希望された小安峡(泊)から須川温泉(泊)ルートで栗駒山に登ったことが印象深く思い出されます。私自身多忙な数年間でしたので、身体が思うようにならないのではないかと心配しておりますが、まずは、健康第一に自分のペースで友達や家族との時間を大事にして楽しみたいと考えております。



禪(29期) 米屋勝利先生(2期) 杉浦(44期)  
工学部物質工学科化学系謝恩会にて

## ■ 高木先生からひとこと

高木 展郎(14期)

大学を卒業してから、今年でちょうど30年経ちました。大学時代を振り返ってみると、ワングルー筋でした。授業よりもワングルを優先した大学生活でした。しかし、卒業後は、何かと忙しく、山へ行くこともわずかでした。最近では、家族で年に一、二回ほど、スキーに行くぐらいです。

3年前、横浜国大に勤務することになり、ワングルのことが気には掛かっていました。4月の新入生勧誘の折にも気にかけていましたが、あの、赤シャツが見られません。ワングルが、大学のサークルの中で、位置づけられているのかも心配ではありましたが、気には掛かっていましたが、自分の仕事にかまけて、なかなかワングルに足を向けることがないまま、3年が過ぎてしまいました。

一方、ワングルのメーリングでは、14期の小口と道夫が、小屋のことで活躍していることは承知していましたが、忙しさの中で、協力することができずに申し訳ないと思いつつも、参加できずにいました。

このたび、米屋先生が定年ご退官の後を受け、はからずも小生が部長をお受けすることになりました。小口と道夫から頼まれたこともあります。これまで何もしてこなかったことに対して、少しでもお役に立てればと思ってお引き受け致しました。十分なことができるかはわかりませんが、キャンパス内にいるOBとして、お役に立てればと思っております。初仕事を、現役の人たちと、新入生勧誘のパンフレットを作ることにしました。先日、米屋先生との引き継ぎの後、それこそ30年ぶりに部室(常盤台の部室は、初めてです。)を訪れました。

なんと、あの南太田の部室にあった机(細長い)が二つまだありました。椅子や部室そのものは、変わっていましたが、机は30年の時を刻み、その色に深みを増していました。

これからも新しい部員が入ってくると思います。OB皆様のお力をお借りしながら、現役部員の助けができればと思っております。

OBの皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## ■ 高木先生略歴

- |         |                       |
|---------|-----------------------|
| 昭和49年4月 | 東京都世田谷区立用賀中学校教諭 (3年)  |
| 昭和52年4月 | 神奈川県立横浜立野高等学校教諭 (6年)  |
| 昭和58年4月 | 筑波大学附属駒場中・高等学校教諭 (4年) |

昭和 62 年 4 月	福井大学助教授 教育学部 (3 年)
平成 2 年 4 月	静岡大学助教授 教育学部 (7 年)
平成 9 年 4 月	静岡大学教授 教育学部 (4 年)
平成 13 年 4 月	横浜国立大学教授 教育人間科学部 (現在に至る)
平成 15 年 4 月	東京学芸大学教授大学院連合学校教育学研究科主指導教官 (現在に至る)

## ■ 部長引継ぎにあたって

主将 塩野貴之(46 期)

まず、これまで長い間部長を引き受けて下さった米屋先生にお礼を申し上げます。そして、ご挨拶にも伺わず、顔の見えない無礼なワングル現役であったことを申し訳なく思います。最終講義にて先生のお人柄を知り、もっとお話をしておきたかったということが今となっては悔やまれます。小さくなってしまったワングルですが今後ともよろしくお願いします。

次に、快く新部長を引き受けて下さった高木先生に感謝の意を申し上げます。早速、新人勧誘用のピラ作りの手伝いをしていただき、ありがとうございました。お忙しいとは思いますが、僕たちもできる限りワングルを活性化させるよう努力いたしますのでよろしくお願いします。

部長である先生方に最も迷惑をかけ、不幸であることは事故であると思います。幸い、過去の経験が生かされてか米屋先生の在任中、大きな事故が起りませんでした。高木先生の代においても事故が発生しないよう十分気を引き締めて活動に望みたいと思います。

## ■ 第9回OB山行(三ツ峠山)の報告

第9回 OB 山行幹事：狩野 一子(14 期)

暖かく穏やかな1日、のんびりと三ツ峠ハイキングを楽しんできました。小口さん、宮崎さん、藤井さんのうれしいドタ参りと初参加の18期山口さん合わせて、14名です。

川口湖畔駐車場に集合時刻9:00に全員揃いました。7期の小林さん、14期の上野さんの8人乗りワゴン車に分乗して三ツ峠登山口へ、途中、路上駐車車が数台あったので、もしかしたら駐車場がいっぱいなのかしらと心配になりましたが一番上の駐車スペースは余裕たっぷりでした。「ああよかった」少しでも登りを少なくしたい私たちです。

さて、広くて歩きやすい登山道をひたすら三ツ峠山頂目指して歩き、ふと気づくと右手にドンと富士山が見えました。何回見ても感動しますね。もちろん、途中2回休憩はありました。山頂からの富士もすばらしいです。雲の影が雪に映り、形を変えていくのをじっと眺めたり、富士山頂付近から雪煙が上がっているのを見て、オホーツク沿岸の地吹雪を思い出したりしてゆったりした時間を過ごしました。残念ながら南アルプス他、丹沢などの山々は春霞の中ではっきりとは見えませんでした。

山頂をあとにして昼食に最適の場所である、木無山へ向かいました。少し手前で昼食です。風もなくとても暖かいのでいつまでもここでボケーっとしていたかったな。若者2人はベンチに仰向けになり、お昼寝タイム。いびきは聞こえてこなかったけれどほんとに気持ちよさそうでした。

木無山ってほんとに木が無い。登山道脇に植林されたカラマツが少しあるだけ。でも少し下ると、立派な天然カラマツがありました。さすが天然もの木の太さも枝振りも違う。天カラやばんざいをしたもみの木を見ながら、ひたすらだらだらと天上山まで下るのでした。途中で黄色い花をつけたダンコウバイがあった。緑





も、カラフルな色の花もないこの季節に目に留まった黄色い花、暖かい風、霜解けのぬかるんだ道と共に春を感じました。

天上山ロープウェイ乗り場には、素晴らしいトイレがありました。靴を脱いで使用するのがなと思ってしまいます。床も壁もきれいに磨かれた天然木です、便座はぼかぼか気持ちがいい。

ロープウェイには乗らず河口湖を見ながらアジサイの道を一気に湖畔の駐車場まで下りました。そして小口さんの車で上野さん、小林さんのワゴン車を取りに三つ峠登山口に行

ってもらいました。ありがとうございました。下見の時は車1台だったのでタクシーで5000数百円もかかりました。

〔日 程〕 2004年4月3日(土)

〔参加者〕 宮崎[2]、吉野[2]、小林[7]、榎本[12]、上野[14]、上野ご主人、小口[14]、狩野[14]、小浜[17]、山口(貢)[18]、藤井[33]、横井[33]、小野[34]、田村[34]

(計14名・敬称略・[ ]内数字は期)



## ■ OB山行のご案内(第10回:御正体山、第11回:磐梯山)

OB山行委員長 小野 恵美子(34期)

### ■ 第10回(御正体山)

2000年10月の北横岳山行で始まったOB山行もいよいよ第10回目を迎えます。今回は日本200名山の一つ、御正体山を予定しています。緑濃い絶好の登山シーズン、一緒に山歩きを楽しみましょう。初参加の方、大歓迎です。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

- 〔日程〕 2004年5月15日(土)
- 〔行先〕 御正体山(標高1681.6m・日本200名山)
- 〔地図〕 昭文社山と高原地図「27 高尾・陣馬」
- 〔集合〕 富士急行 都留市駅 8:30
- ※マイカーでお越しいただける方はお申込みの際その旨ご連絡ください。
- 〔交通〕 八王子駅 7:15～～中央本線各停(高尾駅で乗換えあり)～～大月駅 8:13  
大月駅 8:15～～富士急行～～都留市駅 8:30
- 〔行程〕 都留市駅==〔マイカー分乗・1台は三輪神社林道終点に置き、他は道坂トンネルへ〕  
==道坂トンネル駐車場(9時頃)―岩下の丸―御正体山―三輪神社(16時頃)  
〔歩程約5時間50分〕
- ※下山後 1台のマイカーに運転手を乗せて道坂トンネルに他の車を取りに行く。本隊は三輪神社で休憩、車待ち。その後マイカー分乗で都留市駅へ。
- 〔参加費〕 500円(写真代等)
- 〔持ち物〕 昼食、水、おやつ、雨具、防寒具、その他登山に必要な物
- 〔温泉〕 道志の湯(500円)、芭蕉月待ちの湯(700円)等あり。下山後ご希望の方はご用意を。
- 〔申込み〕 参加ご希望の方は5月8日頃までに下記のいずれかにご連絡ください。  
吉野大次郎(2期) 電話：090-6485-9268 メール：yoshino@r07.itscom.net  
小野恵美子(34期) 電話：042-335-7251 メール：emiko150@nifty.com



コース概念図

### ■ 第11回・第63回シニア月例山行(磐梯山)

第11回OB山行はシニアOBの月例山行と合同とさせていただき、貸切バス夜行日帰りで磐梯山登山を予定しています。暑い都会を離れて、気軽に夏山を楽しむことができます。ぜひご参加ください。詳細は次号会報およびメールで追ってお知らせいたします。

- [日程] 2004年8月27日(金)、28日(土)  
[行先] 磐梯山(標高1818.6m・日本100名山)  
[集合] 東京駅 8月27日(金)22:30  
[行程] 東京駅(23:00出発)＝八方台－磐梯山－表登山口・はやま温泉＝東京駅  
[参加費] 7,000円予定 [歩程約5時間]

## ■ 屋久島へ(現役活動報告)

報告：主将 塩野貴之(46期)

OB会報には毎回のように現役の文章を掲載してもらっており、申し訳ありません。現在の正部員は7名、部誌を発行するには少々厳しい状態が続いており活動の発表の場をOB会報に便乗し確保してもらっているのが現状です。今回は屋久島での春合宿について報告します。

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～  
海拔0mから1936mの宮之浦岳山頂へかけて日本の植生の縮図とも言われる亜熱帯から亜寒帯までの植生が広がるとともに、縄文杉を始めとする杉の巨木が生育する特異性が認められ世界遺産となった屋久島。予め屋久島の自然に関する文献を十分に読んだ後に、遙かなる南の島を鈍行列車で目指した。

3月20日、塩野・佐久間(46期)、井上・小原(47期)の4名は横浜駅を大垣行夜行快速「ムーンライトながら」で出発、まる一日を京都観光に費やし、京都からは再び夜行快速の「ムーンライト九州」博多行で西進する悠長さ。鈍行列車を乗り継いでゆっくりと鹿児島を目指し、遙遠来ぬる旅を想うのは学生の特権か。噴煙上げる桜島を見て十分満足したが、ここからが本番。鹿児島港にテントを張って寝ていると地元の少女の集団がテント脇で一晩中叫び声をあげていたようだが、これもまた旅の出会い。広い世界には異様な行動をする人たちが多数いるものだ。強いカルチャーショックを受けたが少女達の元気さに力をもらい、翌朝のフェリーでいよいよ屋久島上陸へ。鹿児島港から4時間、新しいフェリーになったこともあり錦江湾を出てからも聞いていたほど揺れる事はなく、憧れの周囲100Kmの島が近づいてきた。

横浜を出て60時間後に曇天の宮之浦港に着岸し、そのまま歩いて楠川登山道へと向かい標高630m付近の三本杉脇で幕営。海拔0mから1936mまで登るとというのが僕の兼ねての希望であったが、同時期に屋久島を訪れていた数多くのワングルのうち0mから登った隊は一隊もなかった。里からじわりじわりと山に入っていく面白さ、そして山を考える上でも有意義である事を知ってもらいたいものである。

翌日は「もののけの森」とも言われる巨杉の切り株と再生した杉と苔との見事な造形美を要する森を抜け、世界に名高い縄文杉を愛で、標高1500mの新高塚小屋まで登る。ひと月に35日、雨が降るといふ屋久島らしからぬ晴天に恵まれ、登山道は縄文杉までは遊歩道のように素晴らしく整備され、のどやかな一日だった。屋久島の深い森は期待通りの美しさと力強さ、樹齢千年を超える屋久杉は圧巻の一言。ヤクザルやヤクシカとも遭遇したが持参したハンディカムでごく至近距離で撮影することができた。屋久島の森は慣れた中部山岳の森とは全く異なる構成をしており、特異性を味わったが詳しい事は割愛。屋久島登山をしようと考えている方がおられましたら、植生についての本を読む事をお勧めします。

縄文杉の周辺は立派な展望台が出来ており、ご丁寧に通路や写真ポジションまで説明してあった。完全な観光名所である。ただし根元に立ち入ることは出来ず、幹に触れることも出来ない。有名になりすぎた縄文杉を保護するには仕方のない処置であろうが少し悲しい。

3月25日、宮之浦岳を越える日は難儀した。十年に一度の大雪で谷筋や北斜面にはかなりの積雪が残り、倒木だらけの上に雨の洗礼も受けた。我が隊以前の多くのワングル隊は宮之浦岳に登頂できず、引き返したようである。しかし四人という機動力を生かして、雪上藪漕ぎにルート探しを

頑張りぬき、過去数々の YWV 隊が歓喜の声を上げたであろう、大雨の宮之浦岳に登頂する事が出来た。雨で視界は悪かったが、屋久島特有のヤクシマダケ草原と花崗岩の巨石がミックスした造形美を楽しんだ。「みはるかす」を歌って南側の淀川小屋に向けて下山にかかる。えぐれた登山道上のスノーブリッジに苦労しながらも、雨水に浸った花之江河湿原を通過して無事に混雑する淀川小屋に到着。

翌朝、雨と積雪で体を濡らした二名が体調不良を起こしてしまったため、標高 1360m の淀川口までタクシーを呼び、4 人では少々寂しい「集結」をして亜熱帯の海岸沿いまで下る。二名とも下界に戻るとすぐに元気を取り戻し、予定通りにヤクサバヤトビウオなど海の珍味に舌鼓を打って打ち上げとなった。これがまた涙が出るほど美味しかった。

予想外の深い雪で予定のルートをとどる事が出来なかったが、各メンバーとも厳しい条件のなか頑張りぬいて登頂を果たし、屋久島の自然の雄大さと厳しさを存分に味わうことができた。また山を下りてからは永田いなか浜という屋久島一美しい海岸で一日中ひなたぼっこをして、海の素晴らしさも同時に楽しんだ。屋久島は良き島である、人は温かく、時間はゆったりと流れる。6 日間の滞在では屋久島の深部まで知るには至らなかったが、季節をかえて再訪したいとの思いが強い。快晴の宮之浦岳山頂はどんなにか素晴らしいことだろう。滞在 6 日間で山上の雲が切れることは一秒たりともなかったけれども。

屋久島からの帰り道、開聞岳と霧島という個性あふれる山に登ってきたが、計 13 日間(旅費・奢り代等すべて込みで 5 万 2 千円)に及ぶ旅を通じて、今回の春合宿のテーマ、目的とした人間と自然との関係のあり方を考えるということは十分に達した気がする。今一度春合宿を反芻しながら、自分の考えをまとめてみたいと思う。

部員みんな、良い春合宿をありがとう。

## ■ 横浜国立大学の法人化について

報告：禅 知明(29 期:横浜国立大学 工学研究所属)

平成 16 年 4 月 1 日より、国立大学は国立大学法人となります。我が横浜国立大学も変身して、『国立大学法人 横浜国立大学』と「国立」が二度現れる名称となります。固有名詞と言うことで「横浜『国立』大学」は温存された形です。国立大学法人は当初計画されていた独立行政法人とは法体系が異なり別物ですので、運営体型も異なります。複雑ですので当該の私も理解がなかなか及びませんが、概略を以下に示します。

この変革は国立大学のみならず、高専も含まれ、「国立大学設置法」に基づいて運営されている現行の法律から、「国立大学法人法案」を含む関係 6 法案により法整備されることとなります。比較的分かりやすい解説が文部科学省のホームページにありますので、ご覧になれる方はこちらを。

★「国立大学法人法案」関係 6 法案の概要

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/15/02/030222.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/15/02/030222.htm)

★国立大学法人法の概要

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houan/kakutei/03042401/03091701/001.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/houan/kakutei/03042401/03091701/001.pdf)

●運営体型・・・役員会の元に経営協議会、教育研究評議会を置く

「役員会」 学長（法人の長）、理事、監事からなる役員が構成員となる

「経営協議会」 経営に関する重要事項を審議する機関

「教育研究評議会」 教育研究に関する重要事項を審議する機関

●中期目標・中期計画

①教育研究の質の向上に関する事項、②業務運営の改善及び効率化に関する事項、③財務内容の改善に関する事項、④自己評価や情報発信に関する事項、⑤その他の重要事項、について定

める。文部科学大臣が、あらかじめ当該の国立大学法人の意見を聴き、6年を期間とする中期目標を定め、国立大学法人に示し、各国立大学法人は、中期目標に基づき、中期計画を作成し、文部科学大臣の認可を受け、これを実行する。

※横浜国立大学としての「中期目標・中期計画（素案）」

<http://www.ynu.ac.jp/ynu/news/tyuuki.html>

●財務及び会計

財源は、文部科学省からの標準運営交付金・特定運営交付金（これらは年々減少されていく）や授業料等の収入。運用に当たっては、学長の裁量的経費が増大する。長期借入金が可能になる。授業料については、文部科学省設定の標準額から設定幅の間で決定される。

●教職員

これまでの「国家公務員」ではなくなり「法人職員」となるが「公務員に準ずる職員」という位置づけになる。現在の国立大学の職員は国立大学法人が引き継ぐとともに、権利義務も継承される。

●その他

これまでは「人事院規則」に基づいていた適用則が企業同様となり、労働関係諸法が適用されることとなります。分かりやすい例ですと、労働環境の基準が「人事院規則」より「労働安全衛生法」の基へと変わります。また、産業界・地方公共団体等との連携、産業界等に対する研究協力、ベンチャービジネスの育成などにより、産官学連携により研究教育成果の社会への還元、経営力強化を計画し実行することが必要となる。

いかがでしょうか？分かりにくいですね。受験生の立場になると、大学によって受験料が異なる。学生の立場になると、授業料が大学や学部ごとに異なる、という場合が出てくるようになるでしょう。教職員の立場となると、「公務員」から「法人職員＝団体職員(?)」。一見、私立大学のような体型に見えますが、実態は違う。というのが分かりやすいでしょうか。

私、禅の勤務する工学研究院化学棟の建物では、「労働安全衛生法」の基準を遵守できない設備が多々あり、昨年夏からずっと改修工事続きです。原稿をしたためている3月には、実験室の扉の開く向きを変えたり、労働環境改善と言うことで、トイレ増設（特に女子トイレが少ない現状）、リフレッシュルーム増設（実験室では飲食が完全に禁止されるため別部屋が必要）、ドラフトスクラパー（実験室等の局所排気設備）の改修、空調の増設、実験室の湯沸かし器の電動化・・・と、目まぐるしい変化です。

国立大学が法人となることで、法律の厳守と経営合理化（当然必要ではありますが）が最優先となって、大学本来の教育・研究業務が縮小されるようでは何のための改革か、ということになりますので、職員としても下駄を履き違えない様に任務を遂行したいと思っております。

母校の発展は当面している教職員や学生のみならず、卒業生、同窓生の多大なバックアップがあってこそですので、皆様方も何らかの形でご貢献いただければ幸いです。いい形で母校横浜国立大学が発展していくことを願ってやみません。





## ■ 期別便り

### ■ 4期便り

谷上 俊三(4期)

みなさんこんにちは。4期の近況報告をさせていただきます。OB会員15名のうち貴重な同期「跡部一博さん」を8年前に失って以後、残る14名全員元気に頑張っています。選暦も通り過ぎそれなりの年になりましたので、ほとんどの方が現職を離れ皆さんいろいろバラエティーに富んだ生活を送っています。

世間の常識に違わず、ここでも女性陣がすこぶる元気なようです。

大黒(橋出)美代子さん、原隆子さん、泉(織田)充子さんは月例山行にほとんど欠かさず参加されていますし、仙台で留守宅を守っている永田(阿部)多恵子さんはご主人の留守の間にせつせと近場の山を歩いているようです。山梨にお住まいの横山(広瀬)幸子さんは優雅にゴルフ三昧と言うところで、高田(寺沢)良子さんは長らく勤めて来られた校長先生の職を退き横浜市学校給食会に推薦入学し現役社会人として元気に働いています。

女性陣に対して男性陣はバブル期をわき目もふらず忙しく働いてきたためか、身体にガタが来ている人が目立ちます。シニアOBの活動にいろいろ貢献していただいた斎藤貞夫さんは昨年退職し三重の自宅へ戻って生活習慣病との共存生活で頑張っています。斎藤伸一さんは大病を克服しまだ病後日が浅いのに現在高崎で現役単身赴任、仕事大好きですがお体を大切にとご忠告申し上げます。谷上俊三さんは心臓病やら高血糖やら成人病の総合商社ですが、最近の月例山行は皆勤ですし、近場の山へちょくちょく出かけたりして自由な身を謳歌しています。4期の中ですこぶる元気なのが郡司直樹さんで、ほとんど病気もせず、シニアOB会の幹事として一心にわれわれの面倒を見てくれているのはご存じのとおり、年頭にはカレンダーまで製作配布しています。YWVシニアの月例山行はほぼ皆勤で、更にはお勤めになっていたユシロの山岳会でも月例山行があり毎月山へ出かけているようで、この年にしてそのパワーにはただただ驚かされます。

教育者関係の方々には年によるガタも少ないようでまだ現役で働いておられます。秋田大学教授の永田明彦さんは、新幹線が通ったとはいえ秋田ですから月例山行にはもちろん全く参加していませんが、ご病気などされた様子もなく、夏休みなどはご夫婦で北海道の山歩きを楽しんでいるようです。清水で小学校の教鞭を執られている谷昭仁さんは、お元気ですがいろいろ忙しいようで、月例山行の案内を出してもいつもご都合が悪とのことです。

出版関係のお仕事で活躍された竹内章二さんは退職と同時に横浜山下町の港の見える高層マンションに居を移し優雅な生活をされています。太極拳で健康管理をしつつ、最近月例山行に積極的に参加されるようになりました。最後に我々と「食生活」が異なる牧原洋さんですが、残念ながら音信が途絶えておりまして状況は良く把握しておりません。

以上4期の皆さんは、いろいろバラエティーに富んだ生活をしている上に結構忙しい人ばかりなので、なかなか同期会の時間がとれません。昨年は新年会を中華街でやったのですが、今年は今まで2回チャレンジし2回とも時間の都合がつかず流れました。

### ■ 14期便り

小口雄平(14期)

卒業してから30年が経つ。われらのワングル現役時代も悪くなかったかと、今、しみじみと思う。先輩がいて、同期がいて、後輩がいて、そして、山や自然、山小屋、部室、飲み会等々の場面で、強烈なあるいは静かな、楽しい、なつかしい<思い>となっている。大事な財産である。そして、それらがまた、望めばさらにOBとして続けられるということも、何とも嬉しいことである。

今回、同期の仲間へ声をかけた。「」内は、本人からの近況であるが、急がせた上に、とりまとめは小口が行った。本人の意と異なるところや全体の整理の悪さは先にお詫びしておきます。

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～  
(鶴飼紀夫) 栃木県宇都宮市在住

「二年前に本田技研より関連会社の糊ショーワ(一応一部上場会社です)に転籍となり、取締役開発本部長というのをやっています。自動車用ショックアブソーバー、パワーステアリング、等の部品を製造する会社で役員室の会議 50%、開発プロジェクトの評価 50%といった毎日です。自宅は従来の名簿のまま、本社が埼玉県行田市なので週の内 3 日は行田に行き、他は栃木にある 4 輪開発センター、静岡市浅羽町にある二輪開発センターなどに通う毎日です。

山には最近ご無沙汰しています。去年はどこにも行きませんでした。おととしは夏に北岳に中学の息子連れて小屋泊りで行ったのですが、やっと登れたという感じでした。今年は軽く足慣らしになる所を暖かくなってから行こうかな等と思っています。

この頃思う事は、技術畑の TOP として後進を指導しているつもりですが、技術者というのは後から生まれるほど予備知識として覚えなければならぬ事が増えて大変だなと思うこと。人は生まれたときは白紙だから、世界最先端にたどり着くのは年々困難になっていくわけですよ。それに対し、情緒的な事、とにかく技術以外の事は昔から全然進歩していないなあ、それどころか退歩しているのではないかと思える事が多いのは良くない傾向だと思う昨今です。アメリカンの帝国主義などがまかり通って批判できる国もないのには世の中に愛想をつかせるようになります。人類はどこに向かっていくのでしょうかね。もっともその前に日本の破綻の方が先に来ると思いますが。子どもらの世代は無資源の日本が世界で生きていく為の優位性がまるで無くなりそうですからね。せいぜい英語でも得意になって世界のどこでも働けるように成ればと思います。遺伝子のせいで全く親並みに苦手に育ってしまいました。H16.3.11」

(日野博文) 東京都江東区在住

「元気です。仕事が忙しい状況です。山にはたまに、一人で、腰を痛めているせいもあって、車、マウンテンバイクを乗り継いで、それから歩いて登っています。体が何より大事です。同期で集まる機会があれば何を置いても参加します。H16.3.22」

(鈴木道夫) 新潟県上越市在住。近年は、山小屋の雪下ろし、屋根の葺き替え、トイレの修理と活躍してくれている。

「今年でサラリーマンとして勤続 30 年を同じ直江津の工場で迎えました。結婚して 25 年が過ぎ、娘を 3 人授かりまして 24、20、17 歳と花に囲まれています。その我家の若い娘たちは、焼肉のホルモンが好物です。これって、横浜駅近くの昔のホルモン道場に YWV の仲間と通った DNA が娘たちに伝わったようです。昔、夕方から夜 10 時まで 120 円のコーヒー一杯をちびちび飲んで山の計画を話し合いました。その後、ラー油をたっぷり入れてタンメンか、少しお金があるとホルモン道場で安いホルモンと 100 円の肴酒を飲みましたね。ネズミが走り回ったという小便臭い焼き鳥屋(俗称：ネズミ)は、もうとっくに無いでしょう。

さて、苗名小屋の雪下ろしの手伝いを始めて、気付いたら去年は屋根の葺き替え工事を担当し、今年はトイレ補修がゼツタイ必要だと、旗振り役をやっています。これって、やっぱり YWV が好きなんですね。辛いことがあっても、いつか忘れて楽しんでやっています。辛いことも何もかも、みんな自分の人生経験に生きてくるように思います。すべてに感謝！14 期の仲間的小口や高木と今、又一緒にやれるのも楽しいかぎりです。H16.3.9」

(小口雄平) 長野県飯田市在住。4 月から長野市に戻る。

「仕事は地方の環境行政を 30 年。(いま田中知事に振り回されてはいますが、)自分ではこれからまとめの時期だと勝手に思っています。山小屋に関しては、鈴木くんには遠く及びませんが、雪下ろしなどのお手伝いをさせてもらっています。やはり、小屋はわれらにとっては宝ものだと思います。また、たまに OB 山行にも参加させてもらっていますが、山小屋や OB 山行で、皆さんとご一緒できることはとても嬉しいことです。休みには、時間があれば、巨樹巨木、神社・寺、史跡、美術・博物館巡りをしています。

いつか同期会や周辺の期で集まる機会も持ちたいものです。H16.3.23」

〈高木展郎〉横浜市神奈川区在住。今は、母校国大に戻っている。今度、ワングルの部長をやることになった。ご苦労様ですが、ワングルへの恩返し、よろしく願います。

「忙しいとしかいいようがない毎日です。近年、山へ行く時間は全くありません。年に、数回家族でスキーに行くぐらいです。大学では、教育人間科学部附属教育実践総合センターというところで、小学校や中学校、高等学校の教育に関わっています。特に教育評価や、総合的な学習の時間の授業研究を中心に学校に出かけています。大学のキャンパスで、ワングルの看板や「赤シャツ」を見ることがありません。部員の数が私たちの現役より少なくなっているようです。私たちが現役の時にできた、アメリカンフットボール部は、関東大学の一部リーグに属して隆盛を極めていました。当時は、試合もできない部員数だったのに、学生さんの求めるものが違ってきているのでしょうか。キャンパスも、常盤台ですので、かつての南太田のキャンパスとは異なり、母校に戻ってきた感がありません。時間を作って、苗名小屋にも出かけたいと思っております。H16.3.7」

〈吉田忠〉東京都北区在住。日本消防検定協会勤務

「今までに何回か腰を痛めていたことがありますので、概ね2年半前に秩父の蕨山と棒ノ折山に登った後は、山に行っていない。昨今の頃、腰の状態に少し違和感を覚え、左足に痺れを感じたので風呂上りに若干の体操を行うことにしました。左足ふくらはぎ部分にごく若干の違和感を感じる程度までに回復した現在では、その体操も疎かになっている状態です。

現在の職場は、消防の用に供する機械器具等の検定、鑑定等を行う民間法人化した特殊法人に勤務しています。デパート、劇場等で見かける消火器、火災感知器、スプリンクラーヘッド、金属製避難はしごなどの試験や個別検査を行っています。常時使用している電気製品等と違って、これらの機器が作動するときには皆さんの生命が掛かっている訳ですから、厳しい目でチェックを行っています。

本職場の収入は全て申請者の手数料で賄っております。総務大臣に登録をすれば同様の業務を行えるのですが、ライバル会社が現れず、いろんな意味で規制緩和等の調査や指導が掛かってきて、落ち着いた業務をさせてくれない状況です。また、危険物や防災を主に行ってきた我が身としては、年を取ってから行う新たな業務に四苦八苦している状況です。H16.3.15」

〈鶴岡一〉川崎市川崎区在住

「とても元気でやっています。今は勤めが千葉で、2時間かけて通っています。家族はボーイスカウト活動で、キャンプ、ハイキングと出かけていますが、私は昨年、山にはどこにも行きませんでした。山小屋にも、勤め始めてすぐに行ったきりで、長らくご無沙汰です。H16.3.22」

〈狩野一子〉横浜市青葉区在住。OB山行の常連、何故かシニアOB山行の常連でもある。

「二人娘も既に成人し、シングルライフを楽しんでいます。今一番はまっているのは陶芸です。日曜日になると泥んこ遊びに夢中になっています。10年ほどになるのですが、趣味の域を出られない。2番3番4番もあるけど24時間じゃ足りない。週に3日休みがあるといいね。

先日、テレビでボルネオのキナバル山マラソン登山というのを見たら、どうしても登ってみたいくなりました。1800メートルほどのところから5000メートル近い頂上まで3時間弱で往復するという過酷なレースでした。熱帯雨林植樹の旅とセットでキナバル山にも行きたいと思っています。苗名小屋にも行きたいですが、雪のある時は無理かな。H16.3.10」

〈上野(西井)節子〉横浜市金沢区在住。OB山行にだんなさんと参加してくれています。

「冬休みに、磐梯高原でスノーシューにはまり、丹沢、諏訪の富士見高原スキー場で、スノーシューを楽しみました。春休みには、再度、磐梯高原に行こうと思っています。でも今は、相変わらず成績つけの時期で、余裕のない生活をしています。すぐ近くに、スポーツクラブができたので、プールで体を動かすようになりました。三つ峠には、是非参加したいと思っています。H16.3.13」

〈高橋(山ノ井)とし子〉埼玉県大宮市在住

「元気です。同期の皆さんの活躍をお聞きしています。どうぞよろしくお伝えください。また山小屋にも行ってみたいと思っています。H16.3.22」

(水本(曾根原)靖子) 茨城県東海村在住

「この2、3年、夫と近辺の植物観察会に参加して楽しんでいます。先生を先頭にぞろぞろ歩いて雑草や木の特徴や育ち方、似ている植物との違いなどを教えて頂いています。一回の観察会で、5個の植物の名前を覚えようとしていますが、難しいですね。

日本語のボランティアも、今年で7年になりました。大人も子供も日本に慣れようと一生懸命で、その姿には、頭が下がります。こちらも勉強の日々です。来日してからまだ1年のガーナの子の支援をしていて、今年県立高校合格という、嬉しいことがありました。小、中学校の対応の仕方にあきれたり、喜んだりしながら少しずつ理解をしてもらおうと活動しています。彼らから教えられることの方が多く、日本人だから〇〇人だから、の考え方が少なくなってきました。

週2回は、気の合う仲間とテニスで汗を流しています。以前は、試合に向けてハードな練習をしましたが、今は健康第一で、体の動きが悪くなった分、口を動かしています。私のストレス解消法でもあります。

80歳を超えた両親が神奈川でそれぞれ一人で住んでいて頑張っています。生き方は、私のお手本でもあります。1ヶ月に2回は、帰るようにしていますが、つつい自分のことを優先してしまいがちで悪いと思うことしばしばです。元気で、それなりに毎日を楽しんでいます。

H16.3.18」

## ■ 34期便り

### 親跡 冬樹(34期)

アラブの格言では“過ぎたことは夢。来るものは希望”と申しますとか。私どもの期は平成2年入学、平成6年卒で、今年で卒業からちょうど十年となりますが、振り返って見れば確かに、夢の如きなりとの感もございます。

以下、比較的变化に富むルートを辿った者にやや筆を割きながら、YWV34期の計11名を紹介してみたいと存じます。

井口 健太郎：神奈川県在住。富士通に就職、パソコン通信用モデム開発を経て、現在はパソコンの開発に従事。デスクトップパソコンのいくつかのモデルを、これまで世に送り出してきました。

小野 恵美子：東京在住。食品関係の会社に就職、販売店の新規出店に辣腕を振るうも一念発起して退社。専門学校を経て老人保健施設に就職。三交代制での介護に携わる傍らケアマネージャー(介護支援専門員)資格取得を目指しています。

影井 康弘：茨城県東海村在住。日本原子力研究所に勤務。原子力の数倍以上大きいエネルギーを取り出せる核融合を実現すべく、その燃料となる「プラズマ」の研究に日夜没頭しています。

古平 暁子：栃木県在住。地元に戻って中学校教員となりました。昨年末には長女となるお子さんが誕生。現在一男一女を抱え、今年いっぱい育児休暇をとって子育てに専念の予定。

田中 義人：長野県在住。長野県職員で、現在は保健所勤務。山登りに都合がよいため長野県に就職したそうですが(本人談)、最近、山以外にも多趣味なのが同期の知るところとなりました。パドミントン同好会に所属、同じ会に属していた今の奥さんの心を射止めた由。34期男性陣の中で唯一、昨年秋結婚したばかりの既婚者です。

田村 顕洋：東京在住。運輸省に入省の後、建設省等との合併により国土交通省所属に。専門官(係長のひとつ上の職階)となり、現在は海事関係の部署で、担当する法改正の業務に多忙な毎日を過ごしています。

親跡 冬樹：新潟県在住。建設業界に就職するものの、数年で体調を崩して退職、地元にて休養中。

回復基調は見られるものの、特筆すべき事項はなし。

長谷川 義高：愛知県在住。地元へ帰り、西日本を中心として展開する家電製品の量販店に勤務。

松下 淳朗：神奈川県在住。「日立プラント」に就職。入社当初から一貫して上水道・下水道施設の設計に携わっています。

宮本 薫：「国際交流基金」に就職。当初は日本に研修を受けに来た外国人日本語教師の支援にあたりていましたが、現在はカイロに転勤。現地で日本文化の紹介、日本語教育の支援にあたりています。折に触れて、イスラム文化圏ならではの興味深いお話を披露してくれています。

村山 浩樹：新潟県在住。地元へ帰り、主として自動車用無線を製作している会社に就職。業務用無線機や、無線を利用した各種システムの開発に携わっています。

以上となります。私の書いた紹介文に目を通し、適宜訂正をして貰った同期一同に、この場を借りて御礼申し上げたいと思います。やはりアラブの格言で“災難から遠ざかって楽しく暮らせ”とも申すとか。34 期一同この異邦の格言のように無事息災で、と希望しつつ、筆を置かせて頂きます。

## ■ 2003 年 シニア OB 月例山行報告

シニア OB 月例山行委員長 塚原 伸一郎(2 期)

### ★シニア OB 月例山行

シニア OB 月例山行は 1999 年 1 月に始まりました。集いのある月を除いて毎月 1 回、年に 11 回開催し、2003 年 12 月に第 55 回を迎えました。ちなみに、シニア OB とは、1 期から 8 期までの OB137 名をいいます。平均年齢は、推定 62 歳です。

### ★ 今年の月例山行は

今年 2003 年はあまり天候には恵まれませんでした。中止が 1 度もなく、全 11 回予定どおり実施されました。月別実施状況は下記のとおりです。

#### [2003 年 1 月]…奥多摩・御岳から日の出山 21 名、快晴

冬の奥多摩は雪が積もっていましたが、でも快晴で暖かく、真っ青な空と真っ白な雪の快適な雪道山行でした。大塚山からは雲取山、大菩薩方面、日の出山からは日光、丹沢方面の展望を楽しみました。

#### [2003 年 2 月]…筑波山 31 名、小雪

東京駅から貸切バスで筑波梅林、筑波山、つくば湯とフルコースです。登りはじめてまもなく雪が落ちてきました。頂上近辺も雪がかなり残っていました。2ヶ月連続雪山です。

#### [2003 年 3 月]…大楠山 33 名、くもり

三浦半島随一といわれる桜と大展望を期待して行ったのですが、生憎の曇り空で展望は得られず、桜は少し早かったようです。衣笠城址では学芸員の 2 期齋藤彦司氏より三浦氏興亡の講義を受けました。

#### [2003 年 4 月]…道志・石老山(せきろうさん) 24 名、雨

生憎の雨で、予定していた 34 名のうち 10 名が不参加でした。遅れてきた 2 名(5 期時田、7 期能地)がとうとう本隊に追いつかず、幻の参加となりました。

#### [2003 年 5 月]…榛名山 40 名、くもり

第 7 回 OB 山行と合同で開催、シニア 32 名、若手 8 名、計 40 名と合同では最多の参加者でした。名物のヤマツツジが真っ盛りで、小梨(ズミ)の白い花とのコントラストもよく、新緑と爽やかな 5 月の風で気分のよい山行となりました。

**[2003年6月]…鼻曲山 29名、雨のち晴**

今月は第50回月例山行にあたりますので、記念イベントとして頂上で大アミダくじを開催しました。1等1名3万円相当の登山靴は7期林誠一氏、2等3名マグカップは4期郡司直樹氏、7期久保木克子さん、8期松本真理子さんがそれぞれ射止めました。

**[2003年7月]…箱根・丸岳 35名、雨のちくもり**

乙女峠まで登ったところでドシャ降りの雨となり、涙をのんで退却しました。帰路、箱根湿生花園を見物しました。季節の花がたくさん咲いていました。特にチダケサシは園内狭しと咲き誇っておりまして。

**[2003年8月]…富士・お中道 28名、晴**

今月は夏休みでもあり、シニア月例初めての平日開催でした(水曜日)。雲の上なので遠望はききませんでしたが、頭上は青空で久しぶりに好天の山行となりました。花にも恵まれ、大沢崩れも壮観でした。

**[2003年9月]…武甲山 30名、晴**

8月に続き好天に恵まれ快適な山行となりました。12時30分頂上で発破のデモがありました。1期望月氏(秩父セメント元常務)の解説も加わり、大きく掘られた北半分を眺めて秩父の名山を味わいました。

**[2003年10月]…西沢溪谷 26名、くもり**

まさに紅葉のトップシーズン、満員の西沢溪谷は長蛇の列です。10時集合なのに7時に車で駆け付けた人もいました。

**[2003年12月]…丹沢・仏果山(ぶっかさん)**

**40名、快晴**

快晴の忘年山行は今年最多タイの40名が参加。奥多摩、奥秩父、小金沢連嶺、甲斐駒、伊豆大島の大展望を楽しみました。

今月は通算第55回(実施は51回)にして、延べ参加者は1,500名を越えました。通算の平均参加者は30.1名です。



★2003年実施状況

[月別実施状況]

月	コース	天候	幹事	参加者	摘要
1月	御岳山・日の出山	◎	6期岡田	21	2002年表彰
2月	筑波山	×	7期服部	31	
3月	大楠山	△	8期池原	33	5期時田、7期能地別途参加 第7回OB山行と合同 50回記念大アミダくじ
4月	石老山	×	1期嘉納	24	
5月	榛名山	△	2期塚原	40	
6月	鼻曲山	△	3期腰塚	29	2003年表彰
7月	箱根・丸岳	×	4期谷上	35	
8月	富士お中道	○	5期亀井	28	月平均 30.6
9月	武甲山	○	6期岡田	30	
10月	西沢溪谷	△	7期小林	26	
12月	仏果山	◎	8期田中	40	
				337	

[2003年皆勤賞]

期	氏名	摘要
3期	腰塚 典明	5年連続
2期	吉野 大次郎	4年連続
3期	塩谷 佐紀子	2年連続
4期	郡司 直樹	初受賞
7期	久保木 克子	初受賞
7期	古宮 智津子	初受賞

[30回参加賞]

期	氏名	通算回数
1期	嘉納 秀明	33
2期	宮崎 絃	35
3期	白井 信行	35
3期	塩谷 佐紀子	38
4期	斎藤 貞夫	33
4期	郡司 直樹	39
4期	谷上 俊三	38
5期	亀井 良英	33
6期	岡田 光豊	31
6期	岡田 美奈子	33
7期	小林 秀臣	32
7期	服部 七郎	30
7期	松本 弘道	33
7期	古宮 智津子	30
8期	松本 真理子	36

[50回参加賞]

期	氏名	通算回数
3期	腰塚 典明	51

[特別功労賞]

期	氏名	摘要
4期	斎藤 貞夫	月例山行に対する永年の功績に対して

★年度別実施状況

[参加者数]

年	実施回数 回	参加者 人	1回当たり 人
99年	10	238	23.8
00年	11	304	27.6
01年	10	317	31.7
02年	9	340	37.8
03年	11	337	30.6
計	51	1,536	30.1

[企画賞]

年	月	コース	幹事
00年	12月	石割山	7期 小林
01年	6月	尾瀬ヶ原	4期 斎藤
01年	11月	大菩薩嶺	2期 塚原
02年	5月	甘利山	7期 小林
03年	5月	榛名山	2期 塚原

[参加者数ベストテン]

順位	コース	年月	幹事	参加者 人
1	鎌倉・源氏山公園	02年1月	3期 江崎	47
2	大菩薩嶺	01年11月	2期 塚原	43
2	日光・白根山	02年6月	8期 池原	43
4	パノラマ台	02年3月	5期 亀井	42
4	甘利山、千頭星山	02年5月	7期 小林	42
6	榛名山	03年5月	2期 塚原	40
6	仏果山	03年12月	8期 田中	40
8	石割山	00年12月	7期 小林	39
9	尾瀬ヶ原	01年6月	4期 斎藤	38
9	吾妻山	02年4月	6期 岡田	38

## 2004年 シニアOB月例山行の計画と報告

松本 弘道(7期)

2004年のシニアOB山行は次の計画で進めています。

### 1月31日 宝登山 (北武蔵)

『1期が幹事の月例山行は天気が悪い。』と言うジンクスを吹き飛ばす快晴の空のもと、40名のOBが秩父鉄道長瀨駅に集合した。ロープウェーを横目に宝登山の頂上を目指した。頂上のロウバイ園は花が満開、人も満開で各期ごとに別れて昼食を取り、ロウバイの花と香りを満喫後、秩父鉄道野上駅まで長瀨アルプスを縦走し

た。冬の長瀨アルプスは木々の葉が落葉していて視界も開け気持ちの良い山行であった。

### 2月28日 鋸山 (房総)

フェリーと列車と自家用車で浜金谷駅集合。今月も好天、朝は少し寒かったがさすがに南房総、昼には暖くなり絶好の登山日和となった。石切場から断崖絶壁の頂上を眺め、600円の入場料を払って入山、頂上で360度の展望を楽しんだ後、世界一の1,500羅漢を次々と拝みながら日本寺大仏広場へ。昼食は満開の梅の下で。下りは保田駅までフ

ラワーロードの散策、菜の花が真っ盛りだった。  
参加者 28 名。

### 3月27日 生藤山(奥多摩)

またまた快晴、今年は天気に恵まれている。  
麓はまだ梅が咲いていた。尾根にでると桜の名  
所があるのだが開花もしていない。恐らく年に  
何回あるかという好天で、素晴らしい展望に皆  
歓声を上げた。富士山と遠くに見える南アルプ  
スの悪沢岳、赤石岳、聖岳は真っ白、数日前に  
降った雪で丹沢や奥多摩方面も白い。生藤山は  
1,000mそこそこの山だが、やはり雪がかなり残

っており、春の雪道歩きを楽しんだ。参加者 26  
名。

### 今後の計画

4月17日……岩根山(北武蔵)  
5月22日……丸山(箱根)  
6月26日……霧降高原(日光)  
7月28日……金峰山(奥秩父)  
8月28日……磐梯山(会津)  
9月25日……白根山(草津)  
10月16.17日・白樺高原(蓼科)  
11月27日……妙義山(上州)  
12月18日……大霧山(外秩父)

## ■ 苗名小屋 雪下ろし報告

小屋委員副委員長 石川 真(41期)

今年の冬は暖冬&小雪との長期予報を受けて始まりました。シーズン初めはスキー場のオープンに困るほどの小雪でしたが、年末の年越しの頃には十分な積雪が観測されたようです。雪が降らなければ冬の小屋を楽しめません。しかし、降れば雪を下ろさなければならない。そんな矛盾を感じながら今シーズン第一回目の雪下ろしが2月21、22日に行われました。参加者は部外者を含め8名。早いグループでは9:30より雪下ろしを開始しました。1月中旬に有志による雪下ろしが行われましたが、その成果を隠すような雪の塊が我々の前に立ちはだかっていました。午前中の作業を終え、昼食後の作業では、前夜の夜通しのドライブのおかげで順調に眠気が襲い、ドライバーとして活躍した佐久間君がガックリとうなだれて夢と現実の間を行き来している姿を横目に雪と格闘するというストイックな修行が行われました。煩惱とは何か…自分なりの悟りの境地に達した頃、雪の山は苗名小屋の屋根と変り、周囲には格闘の跡・投げ出された雪の塊が散らばり、夕餉の香りが漂うのみなのであります…

そんなこんなでこのような雪との格闘が今年も公式に1回。非公式に2回。合計3回行われましたことをここに報告いたします。その甲斐もあり無事この冬を乗り切りましたことを参加者・支援者の皆様に感謝したいと思います。

また、New 屋根ですが、非常に雪のすべりがよく、下に落ちてきた雪を処理するのみに留めておく事が、ベストの雪下ろし(もとい雪どかし)の正当なる方法かと思われま



屋根にはほとんど積雪がないことに注目

## ■ 自由投稿

### ■ YWV5期 岡本幸雄君のこと

諸角 壮弑(7期)

君は忙しく人生を走り抜いた。訃報を聞いて信じられない思いであった。奥様に何うと2001.5月の手術の際すでに言われており、覚悟はしていましたがとのことであった。思い出を書き捧げる言



葉としたい。君が無理をしている、と思う場面に3度出会った。双子池(北八ツ)では学内公募のサマーキャンプの後、ポッカ役を引きあてた君は60kg近いザックを背負い皆と一緒に蓼科山を歩いた。正月の北八ツも冬天を引きあて青息吐息であった。苗名小屋が出来てすぐの冬、結婚前の奥様とご一緒した。山になれない恋人を心配したのであろうが、これまた膨大なザックを背負いリフトにしがみついていた。痛めた膝は一生カバツていた。三国峠から平標、谷川、西黒尾根のパーワンも雨、雪、霰のなかをなんとか歩いたが、下りに手間取り土合の駅へ走り走った。これを書いて僕はなにが言いたいのか、とはたと思う。君は真面目すぎた、悪智恵を働かさなかった、それが君の持ち味だった。だからこそ皆から慕われ、80名近い部員を高山の城山公園に集結させた。地元の人を巻き込んだ大ファイアーは盛況で楽しかった。川の向こうも相変わらず不器用に歩いているのだろうか。合掌

岡本幸雄君 2003.11.15日 逝去 死因 膀胱ガンの後アチコチ転移  
1963(S38)年度 YWV 主将

## ■ 白山紀行

山本 陽一(10期)

2003年の山本家の「夏山合宿」は、女房の希望で「加賀の白山」と決まった。以下にその紀行文を記す。

8月16日(土)

久しぶりに上野発の夜行列車に乗った。夜行高速バスが満員だったので1人当たりプラス一万円です寝台特急「北陸」にしたのだ。結果的にはこの方が快適で熟睡できた。夜行バスのような、首と腰の痛みもない。しかしいつもの出張の際の夜行列車の癖でチューハイを飲んだため、夜中に3回もトイレに行く羽目になった。

8月17日(日)

列車は定刻に金沢に到着した。乗り換え時間12分で大丈夫だろうかと心配していたが杞憂に終わった。既に雨が降っていたが、バス停までは屋根があり濡れずに行けた。バスの乗客は定員の半分弱で20人くらいであった。途中の鶴来村での休憩のあとまで殆ど眠っていたが、気が付くと市ノ瀬であった。これから先は一般車立ち入り禁止となっている。金沢から2時間近く掛かって漸く終点の別当出合に着いた。ここで朝食をとり雨具を付けるなどの出発準備をした。ここからは、より登山者の少ない「観光新道」を登る予定であったが、弱気の虫が出てきて、この雨では登山者も少ないだろうと、楽な方の「砂防新道」に変更してしまった。これが誤算であった。確かに登る人はそれほど多くはない。しかし、前日の土曜日に登って室堂に泊まった登山者が続々と下りてきて頻りにすれ違うのには参った、というわけである。それと共に参ったのは、歩き始めてまもなく右の手の平が痛痒くなってきたことである。悪質な虫に刺されたらしく、手の甲まで腫れてきた。砂防新道の途中では林道造成工事や光ケーブル敷設工事などが行われていた。

展望のない中では、別当観から谷を見下ろしたのが唯一の景色であった。しかし、さすが花で有名な白山だけのことはあり、高山植物は豊富であった。

虫と雨と下山者に見舞われた所為か、夜行列車で寝不足だった所為か、歩き始めから不調であった。11時を過ぎた後、ベンチとテーブルがあったので、そこで昼食とした。パンばかりでは面白くないので初日はラーメンとした。雨の中でガスコンロを組み立て、湯を沸かした。腹ごしらえをするとやっと元気と調子が出てきた。そのすぐ上には甚之助避難小屋があったが、中は雨宿りをする人で一杯だった。この先2時間ほどで森林限界を超え大きな岩のある「黒ボコ岩」に到着した。その後は、這い松の間の急登や弥陀ヶ原の石ころ道を行くと、やがて前方に室堂の建物群が見えた。

室堂で宿泊手続きをする。金を払おうとザックの中から財布を取り出すと、中までビショ濡れであった。ここでは、一人あたり2600円の節約(7700-5100)と早立ちするために自炊とした。自炊と食事付きでは泊まる建物が別になっているが、自炊の方は、100人以上は泊まれそうな建物に10

数人だけでがらがらであった。しかし夜のいびきと朝のパッキングのざわざわ音に熟睡を妨げられた。

8月18日(月)

夜が明けたが、雨が止むとの淡い期待を裏切り、外は相変わらずの雨であった。水場へ行く道が滝ようになっていた。トイレは建物同様立派なものであったが、蛆がウジャウジャいて歩くとプチプチとつぶれる音がする。コースをどうするか、いろいろと悩んだが結局一里野温泉の民宿をキャンセルしては悪いという思いで予定通りのコースに行くこととした。室堂から御前峰(山頂)までの道は、神社の参道と言うことで非常に立派なものだった。風雨の中で頂上に着いた。普段だったら賑わうはずであるが、誰もいない。記念撮影だけして早々に下りる、といっても引き返さずにミドリが池の方に向かう。次々と現れる池と残雪と高山植物を見ながら進む。大汝峰分岐に着いたが、悪天であり登頂しても無意味と判断し左側の巻き道に行く。まもなく山頂からの道と合流するが、行き先が「七倉山」という聞き慣れない山となっている。そのまま進むが、そのうち不安になりガイドブックと地図で確認した。七倉山は釈迦新道、加賀禅定道との分岐の十字路(七倉の辻)の近くにあった。その先には御手水鉢と称する、上が水たまりになっている大きな岩があった。このあたりでは風雨とも強く、道には這い松が覆い被さっており非常に歩きにくいところであった。しかも道に水が流れ、まるで川の中を歩いている気分であった。しかしこれはその後のコースのほんの序章に過ぎなかった。

まもなく、七倉の辻に到着した。ここまで来たら全く迷いはなく楽々新道を選んだ。一寸の間少し展望が良くなり火山地形独特の景観が垣間見えたが、それもほんの一時であとはまた淡い霧の中となった。辻から下り始めしばらく行くと、新岩間温泉まで(約)11km という標識が現れた。丹沢山から宮が瀬間の距離と同じで、これは今年の5月に歩いているので、気象条件は悪いものの何とか辿り着けそうだったと思った。さらに下ると、清浄ガ原についた。ここで少し腹ごしらえをした。ここまで来るとすぐに小桜平避難小屋と思ったが意外と時間がかかった。分岐から400mとあったが、1kmも歩いたかと思われた頃小屋が見えた。小屋は沢の近くに建っており、その手前の沢は増水して20~30cmの深さとなっていて幅は1mそこそこだが渡るのに苦労した。小屋は比較的きれいな感じでありここで雨を避けながら昼食にしようと思いついた。

無人だと思った小屋の中に入ると何と男が一人いるので一寸びっくりした。しかしこの人と話し始めたらますますびっくりすることばかりだった。何と、晴天であった13日にこの小屋に着いたがその後はずっと雨だったので今日までここにいたという。幸い毛布があるし、食料も一週間分持っているのだ、と言うのだが、顔には出さないがしばし唾然となった。今日は18日であるから5泊したことになる。いくら居心地が良くてもあと3~4時間も歩けば下に下りられるのに、何でと聞くと、しっかりした雨具がないからだという。この「小桜平避難小屋の奇人」の荷物はザックではなく手提げ鞆で、これを近頃の学生のように提げひもで背負うのだ。靴はいわゆる運動靴である。となれば、一週間分の食料って何だ、と疑問をぶつけると、乾パンばかりを食べているとのこと。余っていたキュウリを上げるとマヨネーズもつけずにかじっていた。何をしているのか聞いたがはっきりしない。金はないが、時間はいくらでもあるようだ。確かなことは宗教関係ではないこと。何か修行をしているのかと聞いたがそうではないとのこと。明日か明後日雨があがったら岩間温泉に下り、一里野温泉から今度は加賀禅定道を上り返し、またそのコース上にある避難小屋に泊まるという。いつまでも「奇人」とつき合っていられないので、我々は昼食後まだ降り続く雨の中をさっさと下山した。後で気がついたがザックの中には甘みの薄いオレンジが3つあった。これも「奇人」さんに上げてくるべきであったと思った。

この後にまたまた難所があった。沢を横断するところが崖の上にある、即ち滝の落ち口を横断するのであるが、飛び石が落ち口付近にしかなく、その上流は深い。しかもその飛び石は滑りやすそうだ。危ない場所が2ヶ所あったが、そのうちの1ヶ所で女房が深みにはまってしまった。女房はそのほかの「普通」の場所でも両手にストックを持ちながら7転び8起きであった。このころ雨脚が鈍ってきて雨が一旦止んだが30分持たずに再び降り出した。

いい加減脚と膝がガクガクになってきた頃ようやく林道に出た。ホッとする間もなく、ここではアブに襲われた。顔の周りを飛び回る虫は山中にもいたが、アブは刺すので始末が悪い。30分以上たって新岩間温泉の山崎旅館に着いた。前日は下山した二組の女性がギブアップして、登山連絡所になっているこの宿に助けを求めて来たとのこと。ここには温泉の源泉があるのだが、温泉にトラブルがあり下流の温泉にお湯が行かないと言う情報があり衝撃を受けた。ここから一里野温泉の民宿雪国荘に電話をして迎えを頼んだ。道すがら、訪ねるとお湯の状態は普段と変わらないとのこととで安心する。アブの話をするとも標高1000m以下のところにアブがいるのだが、今年は例年に比べ非常に少ないとのこととでいつもなら、前が見えないくらいいるそうだ。民宿に着くと、泊まり客が殆どいなかったことも幸いして濡れた装備と靴を一生懸命に乾燥させた。また洗濯機を借りて衣類を洗濯することができた。

8月19日(火)

11時過ぎに民宿前を出発する1日2本しかないバスに乗る。民宿のおばさんが、裏の畑からトウモロコシを取ってきてくれた。ここから金沢までは、直通バスがなく、鶴来から電車に乗り換え、野町でまたバスに乗り換えるという、不便なものであった。

金沢からは高速バスで帰路についた。

(おわり)

## ■ ポルトガル便り

鈴木 弥栄男(9期)

欧州大陸の南西端に位置する、日本の面積の約四分の一の、温暖な気候のポルトガルに海外駐在して、丸5年を経過しようとしている。

赴任時には、本場のアルプスも登るんだとの想いを抱いて登山道具を持参してきたが、実際には残念ながら一度も使わずに、又日本へ戻す破目になりそうだ。でも、失礼ながら飛行機の窓からアルプス全貌を、またはスイスの高山列車に乗ってアイガー北壁の直下まで、そしてすこし歩き、凜とした山容を愛で、高山植物を大いに楽しんできた。自分の足で踏破して、偶には海拔ゼロからスタートした若かりし頃とは雲泥の差と知りつつも、どうしても安易な方向へ流れてしまうようだ。

近時、移動時の飛行機利用時は、例のテロが横行するので、ワインの栓抜きや登山ナイフやガス・ボンベ類などの持込が禁じられ、結構制限があり往生してしまう。成田空港では特にボンベ類は厳禁で、例えばバグゲージでも事前チェックで撥ねられてしまうからたまらない。欧州の飛行場はあまりバグゲージをX線検査をしないので、危険なものを機内持ち込みさえしなければ通過は可能のようだ。

9期の学生の頃は、写真機を持っている人間が少なく、ある時期からカラー写真に取って代わったが、今のデジカメの素晴らしさには敬服する。コンパクトであり、画素も増えて綺麗に仕上がりに、また自由に取捨選択ができて真に便利になったものだ。学生時代は、山行時に写真を撮る精神的な余裕がなく、寧ろ自分の脳裏に焼き付けざるを得なかったが、現在は山に限らず自然の美しさや街の風景などそのときの感動をインスタントに画像データに置き換えることができる。加齢と共に考え方を変えても良いのだと、自分を納得させている今日この頃である。

ポルトガルのリスボンへは、成田から直行便がなく、ロンドン、アムステルダム、パリやフランクフルトなどの他の欧州都市を乗り継がないと来れない。これは逆にいえば欧州各地へ3時間そこそこで何処へでも行けることであり、列車網も国境なく充実している。従って欧州の各地へ出掛けて、海外赴任の良い面を享受しているところである。



**YWVOB 会会報第 26 号**

発 行:横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB 会

発 行 日:2004 年 4 月 18 日

発行責任者:嘉納 秀明(1)

編集責任者:編集委員長 田村 顕洋(34)

編 集 担 当:編集副委員長 松本 弘道(7)、同 山崎 美穂(39)

編集にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。